



座光寺風景

大鹿歌舞伎 舞台校舎特別公演

**舞台校舎竣工
150年記念事業**
演劇「さくらと舞台校」
大鹿歌舞伎特別公演

明治7年、座光寺の人々の歌舞伎舞台建設への熱い想いと学校建設の必要性から、歌舞伎舞台と学校を兼用する画期的な「舞台校舎」が建てられました。今年、舞台校舎竣工150年となり、麻績の里振興委員会主催により、演劇「さくらと舞台校」と大鹿歌舞伎特別公演が開催されました。

演劇「さくらと舞台校」の原作・原案・演出補である野口千恵子さんは、「舞台校舎と桜を題材として祖先の皆さんに感謝の気持ち

**150歳の
舞台校舎も大喜び！**
麻績の里振興委員会
会長 筒井 誠逸

150年前の明治初期、座光寺村民の待望の舞台と学校を合体した「麻績学校」が完成した。当時の先輩達の欲びはいかほどだったことか！

あれから150年の間、座光寺の誇り「舞台校と舞台校舎」は地区の移り変わりをどう想って見て来たのだろうか？

今年で150周年を迎え、記念行事として、
1、公募で参加してくれた演劇

ちを伝えることができた公演だったと思います」と語ってくれました。

国重要無形民俗文化財である大鹿歌舞伎には「鎌倉三代記三浦別れの段」を演じていただきました。平成9年4月に、舞台校舎の解体修理工事の竣工を祝う「こけら落とし」として招待して以来27年ぶりの大鹿歌舞伎公演となりました。

牧野自治会長は、「素晴らしい公演がありがとうございました。舞台校舎が国の文化財になるようにこれからも頑張りたい」と語ってくれました。

(関連記事は4面、5面)

2、大鹿歌舞伎の実演を行うことができました。

一般公募にエントリーしてくださった創作劇「さくらと舞台校」は私も知らなかった村を二分する騒動も取り入れた内容で、年寄りには涙が出るほど素晴らしかった。また、昼夜4回のチケットは完売する盛況でした。大鹿歌舞伎の公演は、11月3日(日)で、屋外での観客の皆様には寒いと心配しましたが晴天に恵まれ、200名のお客様と伝統ある演技を楽しむことができました。

ご寄付を下された方を始め皆様に感謝！

リニア開業延期を受けて 変えないもの、見直すもの、現状を問う

市長と語るまちづくり懇談会

座光寺地区の「市長と語るまちづくり懇談会」が9月27日(金)、座光寺公民館で開かれた。自治委員をはじめ、地域住民約50名が参加した。市長からは市長の他、リニア推進部長・建設部長・産業経済部長の出席があった。

工事は延びても、関連道路整備は当初の計画通りに進める、騒音や要対策土問題などで不安を抱える住民との意見交換の場を設ける、衰退地区への移住者誘致など、地域振興を市が主体となって推進することなどを要望した。

今年度は、JR東海によるリニア開業延期の正式発表を受けて、駅や関連工事への影響、今後の整備見通し、また企業誘致取組みの現状などを中心に、市と意見を交わした。牧野光彰自治会長は最初のあいさつの中で、リニア本線

佐藤健市長からは、「市全体の今後のまちづくりに座光寺が中心になって来る。舞台校舎・舞台校などの文化芸術面は、リニア時代に大事な資源」と述べ、続いて、牧野自治会長のあいさつに応える形でリニア関連へと話を進めた。市が管轄する駅前広場や駅周辺工事は予定通りに進め、2028年度より一部供用開始をして、道の駅のような形で賑わいを作っていくとした。地元への不安に対しては、関係各所にその対策をしっかりと申し入れるとした。信大の関係では、水と太陽光から水素を作る研究室が、来年度よりエス・ボードに開設されると発表。関連研究機関の進出で期待できる研究者たちの居住も視野に入れて、この地



の振興を図りたいと述べた。

この他、佐藤市長は先般の能登半島の大地震や豪雨災害を受けて、これを他人事と思わず我々も日頃の備えが大切とし、防災の話に多くの時間を割いた。特に自宅の耐震化の重要性については、資料を持参して力説した。

会後半の「地域からの課題と要望」の場では、まず産業建設部長から、改めてリニア工事の遅れについて、「JRは見通しが甘かったのでは。地元への説明が遅かったとの声もある」と苦言が呈された。その他、企業誘致の現状や、都市計画・農振の見直しなどの進捗状況を問われた市は、補助金制度により確実に外部からの進出は進んでおり、工場の他オフィス誘致も広がっているが、まちの設計図作りの方は遅れており、来年の春には

市民に示し議論したいと回答した。

続いて土地利用計画運営委員長からは、今年度より信大ランドスケープ研究室と連携して、土地利用計画の見直しを始めたことが報告された。市から示された重点エリアと

台風10号の影響により

防災訓練中止

9月1日の「防災の日」に行われる予定の防災訓練が、台風10号の九州・四国地方への上陸に伴い中止されました。今後想定される南海トラフ巨大地震などに備え、更なる防災への意識を高める機会でしたが、各家庭での防災対策に委ねられました。

本年は、元日の能登半島地震の発生、お盆前の南海トラフ地震臨時情報の発表、8月末の巨大勢力の台風10号による日本列島直撃などがあり、住民それぞれが緊張感を持ち、訓練に参加する決意で当日を待ちました。その中で、台風10号の接近に対し、飯田市は開催2日前に、「参加者の安全確保の観点から」と、中止の判断をしました。

重なる、元善光寺周辺と溜め池大堤周辺の具体的な整備案を、学生2人が発表した。市ではこれをベースに実現可能なプランを探っていく模様。リニア開業の遅れで時間に猶予ができたことを好機と捉え、より周到な準備をしたい。

今回の全体訓練では、参加者全員による避難所設置・運営訓練が企画されました。アルミ製ロールマットや簡易ベッドの設置のほかに、段ボールを用いたパーティションやベッド、簡易トイレの設営に取り組み予定でした。被災地からのニュースで耳にする段ボールを用いた避難所用品を実際に扱い、避難所を設営することで、住民一人ひとりの防災に対する意識の向上が期待されただけに、中止の一報は残念でもありました。しかし、災害対策本部長の牧野光彰さんは、「災害時には、近隣住民がお互いに助け合うことが大事です」と、コロナ禍以前のような近所同士のつながりの重要性を強調します。また、参加予定者からは、「今夜、家族で避難用の備品や指定避難所の再確認をしたい」と、前向きな意見が聞かれました。



答弁する佐藤市長

座光寺の 子どもを 語る会



ふるさと学習で地域再発見

座光寺の子どもを語る会

推進委員会 片桐 善昭

座光寺の子どもの健やかな成長を願い、地域住民が一堂に会して話し合う「座光寺の子どもを語る会」が9月13日（金）、座光寺小学校において保護者を中心に約100名の参加により開催された。

今年、3・5・6年生が取り組んできた「ふるさと学習」の各テーマのグループ発表を受けて、感想や意見の交換を行った。

3年生は「座光寺の宝物」をテーマに、お祭りや、自然の豊かさ、人の優しさなど座光寺の魅力を発表した。

5年生は「ふるさとの食探し」で、水産業や米作りと食文化について。

6年生は「家づくりの半端材を使ってできること」で、保育園の玩具や無人販売所の提案などの発表があった。

各グループともポスターや



写真等分かりやすく工夫しており、セックションでは参加者からの質問・アドバイス等のやり取りを緊張の中、はきはきと受け答えをしていた。

参加者からは「大人の知らないことなど良く調べまとめていた」「子どもの成長を感じられる良い機会になった」などの感想をいただき閉会した。

座光寺の子どもを語る会に さんかして

3年 ささ木なる

先日、座光寺の子どもを語る会がありました。そう合で調べた地いきたんけんのかかった事について発表しました。

練習の時は、となりのクラスと一しょに発表練習をしました。わたしはきんちょうしました。

本番では、わたしは通学路の森について発表しました。いつも学校に行く時に見る自

ぜんがとでもすてきだったので、その事について発表しました。はんのみんなと一しょに発表ができてよかったです。

また4年生になって語る会にさんかしたいです。発表できてよかったです。

座光寺の子どもを語る会

5年 仲田 優来

9月13日に座光寺の子どもを語る会がありました。5年生は、総合で学習していることをグループに分かれて発表しました。僕達のグループは、お米を使った料理について、調べて発表しました。最初にみんなで話し合っ出てきたのが「おはぎ」「五平もち」「おもち」でした。インターネット等を使って調べ、絵本にまとめて発表しました。

当日は僕の祖母をはじめ、たくさんの方が僕達の発表を見に来てくれました。1回目の発表は緊張しましたが、2回目はだんだん慣れて、良い発表ができました。

これからもたくさんの方に米料理のことを知ってもらえたら良いと思います。

地域学習会を 開催しました

運営委員会 原田 聡昭

去る9月15日に「一人一人が主役！あなたも未来の座光寺を考えてみよう！〜元善光寺前町と大堤周辺はどう変わるよいか〜」を開催しました。初めに、座光寺地域土地利用計画について、松村センター長から説明がありました。座光寺には土地利用の将来構想に12のゾーンがあり、この中で、大堤地区が該当する「住宅環境創造ゾーン」と、元善光寺から駅にかけた地区が該当する「街並み景観創造ゾーン」を中心に検討を行っているとのことでした。

続いて、信州大学大学院ランドスケープ研究室が研究している大堤地区と元善光寺前町について、研究報告がされました。まず、前町については、課題として①車のための空間で、歩道が狭いこと②目的の地が少ないこと③工場など人工的で無機質な空間があることが挙げられました。これに対し、道路を一方通行化して歩行空間を拡幅し、歩きたくなる空間を作ること、建て替えのタイミングで建築



市場通り地区の様子

のルールを作ることなどの提案がされました。参加者からは、リニア駅から元善光寺駅の道路についても検討したほうが良い等の意見が出されました。

大堤地区については、まず、①堤はつぶさずに自然環境・防災・親水として活用する②大堤団地の建て替えをセットで考えて民間デベロッパーを活用する③良い景観を活かしてリニアができたときの二拠点生活に活用することが提案されました。参加者からは、現在の堤の大雨による決壊の心配や、近くに商店がない等の意見が出されました。

この日は残念ながら20数名の参加でした。座光寺の将来を考えるためには、地域の大家勢の皆様が意見を出し合っ、大いに語り合うことが必要です。文化祭で行うフォーラムにぜひご参加いただき話し合います。

舞台校舎竣工150年記念

とくらと舞台桜

9月21日・22日・23日



22日公演の後には糸操り人形特別公演も行われました

舞台校舎竣工150年記念

大鹿歌舞伎

舞台校舎 特別公演

11月3日



竹田人形座 鈴木友子さんの公演も行われました



古代伊那郡の 役所と天竜川

歴史に学び地域をたずねる会

講演会「古代伊那郡の役所と天竜川―馬・牧・官衙と船・津・神社」という題で9月8日(日)に、東京大学名誉教授で、飯田市歴史研究所顧問研究員である田島公先生の講演会を座光寺地域の方々に聞いていただきたく、座光寺公民館で開催致しました。



講師の田島公先生

先生は前日の9月7日(土)飯田市歴史研究所主催の講演会で「文献史料から見た史蹟恒川官衙遺跡―伊奈評の成立と評寺の建立と伊那郡衙の機能」という題で講演会をされています。この講演会には座光寺から12名が参加されました。

座光寺の講演会には30余名の方が参加していただきご協力ありがとうございました。講演会の内容に細かくふれたいのですが、記載する余裕が無いので項目だけにさせていただきます。

1、「イナ」の由来―
2、天武・持統朝と科野遷都計画と飯田・下伊那地域の

出土の二枚の『富本銭』―
3、七世紀後半の伊那郡評衙―恒川官衙遺跡の始まり―
4、八世紀以降の伊那郡衙と馬の飼育、伊那郡大領(長官)の金刺舎人八磨呂と「信濃国牧」

5、天竜川の名称と殿山遺跡出土船形植輪

6、座光寺と川路―上川路廃寺―

7、伊那郡内の『生嶋社』と式内社(阿智神社・大山神社)に立地

の講演内容です。資料は振興センターか歴史に学び地域をたずねる会に言っていただければコピーしますのでお願いします。

恒川官衙遺跡ではガイダンス施設の建設工事も始まりました。皆で良い公園ができたと言えるように頑張りましょう。

遺跡 ガイダンスエリア着工

2000年浪漫的郷委員会

恒川官衙遺跡は奈良〜平安時代に伊那郡を治めた役所「伊那郡衙」の跡です。座光寺地域は、第1次基本構想・基本計画(H19〜28)で「郡衙遺跡群の国史跡指定や遺跡調査と清水の湧水復活の研究を進

める」ことを掲げ、歴史的な遺産の保存管理と継承に取り組んだ結果、平成26年3月に国史跡に指定され、史跡公園が整備されることになりました。

恒川史跡公園は、遺跡の適切な保存管理を前提として、住民と来訪者にとつての憩いの場・学習の場・交流の場とすることを整備の基本理念としています。地権者の方をはじめ関係者のご協力のもと、清水エリア、正倉院北側エリアの整備が完了し、今年9月、ガイダンスエリアの工事が始まりました。

このエリアには、史跡の価値や魅力を伝えたり、数多くの歴史・文化資産を有する当地域の魅力を発信したり、体験学習や交流の場となる施設「ごんが歴史交流館」が建設されます。建物は今年度末に完成見込みであり、来年度は、施設内部の展示工事を予定しています。

2000年浪漫的郷構想の取組にとつてたいへん重要な施設です。住民に親しまれる施設となるよう、地域として活用と管理を考えていきたいと思います。



敬老祝賀会

高陵中3年 片桐 維吹

僕は敬老祝賀会に参加してみて、特に2つの事が思い出に残っています。

まず、1つ目は座光寺の人のやさしさです。僕が作文を発表した後「立派だった」「すごい良かったよ」などとても嬉しく感じる人が多く、とても心が温まりました。

2つ目はこの座光寺地域についてです。現在少子化が進み、子どもの数が減少しているため、これからは僕たちが

この座光寺地域を盛り上げていかなければならないんだと感じました。

僕は、みなさんが盛り上げ、発展させていってくれたこの座光寺地域を、これからも大切に守りながら生きていきたいです。



ファミリー料理教室

健康福祉委員長 原田美保子

11月2日(土)に健康福祉委員会主催でファミリー料理教室



室を行い、家族の方とハンバーグ・ヨーグルトサラダ・ぶちぶちフルーツポンチを作り試食をしました。アドバイスを受け、真剣に切ったりこねたりしているお子さんの姿が印象的でした。一生懸命になるほど皆さん無口になられた気がします。その分出来上がった時の笑顔が素敵でした。包丁や火を使うことはなかなか家ではさせられない経験かと思いますが、一緒に料理するよい機会になったと思います。来年はぜひ男性の方も参加してもらえたらと思います。

パノラマファームりんごまつりにさんかして

3年 松村こうすけ

パノラマファーム大門りんごまつりに行きました。まず、アサギマダラという、わたりちようをさがしました。羽のようがキレイでした。

次に、りんごがりをしました。さいしょにとったのは、しなのピッコロです。真っ赤なりんごをとって丸かじりしました。あまくてシャキシャキしていました。

次は、こうぎよくをとりました。赤黒いりんごで、りょう理によく使うそうです。

他にも色々なりんごがありました。おいしかったし、楽しかったので、また行きたいです。



火おこし体験の思い出

4年 三村 真希

私が火おこし体験に参加して、一番心にのこったのは、みんなで火をおこしたことです。火をおこすには、体力が必要だし、むずかしいので、お母さんと交代でやりました。けむりがフワフワと少し出てくるころにはもうつかれちゃうので、「火をおこすのって手作業だとこんなにむずかしかったんだな。」と思

悪戦苦闘しながらも楽しい蕎麦打ち

大人の蕎麦打ち体験

文化部では、「大人の蕎麦打ち体験」を11月23日(土)に麻績の館人形劇ホールで開催し、9人が参加した。

文化部長より

蕎麦打ちの全体工程を知らない自分が、1ヵ月で蕎麦打ちを教えるまでに至るのは無謀な挑戦でした。あきらめずに懇切丁寧に教えていただいた船田さんには感謝しています。苦勞した分、当日真剣な中にも楽しく蕎麦打ちを体験されていた参加者の皆さんを見ると胸が熱くなりました。参加した皆さんには蕎麦

いました。私は火をおこすことができませんでしたが、ちらほらと火をおこせた人もいて、すごいと思い、また火おこしのリベンジをしたいと思いました。

火をおこした後は、みんなでパンを焼きました。炭火で焼くことで、おいしくなりました。来年も参加したいです。



粉から打てることを喜んでもらい、全員に自分が打った蕎麦を持ち帰っていただくことができました。自分で打った蕎麦をご家族に振る舞えることを思うと喜びもひとしおです。開催側、参加者、お互いに楽しい時間を過ごせました。今後も蕎麦打ち企画を続けていきたいと思えます。年明け2月には文化部主催の文化祭も企画しております。今



後とも公民館活動に楽しみな参加者加えたいです。

下諏訪レガッタへの取り組み

ざ・いぬい

佐々木 典良

私たち「ざ・いぬい」はボート競技のナックルフォアを楽しんでいる愛好会です。毎年、9月に諏訪湖で開催される下諏訪レガッタに出場しています。

結成して15年になります。が、きっかけは昭和33年、34年の戌・亥年生まれ、戌亥会の集まりでボートを漕ぎたいという話を持ち上がり、一度諏訪湖へ行きボートを漕いでみたのが始まりです。

当初のメンバーは戌亥会を主体に男性11人、女性3人の合計14人で、5月から9月に毎月2回、諏訪湖で練習するようにになりました。

ナックルフォアは漕手4人と舵取りのコックス1人の5人で出漕します。

下諏訪レガッタで出場する種目は、漕手が男性のみで平均年齢50歳以上のシニアパドルと、漕手に女性1人以上を入れるミックスパドルの2種目です。

これまでの15年間で、シニアパドルは優勝1回と入賞12

回、ミックスパドルは4年連続2位を含めて入賞6回という好成績を収めてきました。シニアパドルが優勝した年は「ざ・いぬい」が大会から奨励賞をいただき、全国大会にも出場することができました。

現在は男性6人、女性3人の9人で活動しているので、今年は外部に応援をお願いしてなんと2種目に出場しシニアパドルが4位、ミックスパドルが5位の成績でした。これからも下諏訪レガッタ2種目出場と県外の大会の出場も目指して頑張りたいです。

座光寺の皆さんに「ざ・いぬい」を知っていただけたことでメンバーが増えれば嬉しいです。



諏訪湖で練習中のみなさん

大堤の土手の 気になる植物

大堤が埋め立てられることになった。この堤は唐沢など下段の水田の水を賄うためにつくられたもの。水田が少なくなり、西天竜の水が下段の水田の水を賄うようになって必要性がなくなったためだ。

弥生時代以後、米作りが強く叫ばれた時代が長く続いた。米が地域(藩)の力であり、武士の給料でもあった。稲作には「水」が絶対。田植えて備えて、堤に水を貯めておく必要があった。重機の無い中で堤をつくることは一大事業だったに違いない。

埋め立てが決まったとき、反対の声があがった。長い間に堤の水と土手に独特の自然・生物相がつくられたからだ。水中生物、水上の水鳥、トンボ等の昆虫類、土手(堰堤)の植物相等、そして冬のカモ類の越冬地でもある。他に無い自然を守りたい…この気持ちはよ



7月下旬の草むら

くわかるし、大切にしたい。また座光寺では大堤以外の地域のため池がほとんど減っている状況もある。

ただ、池は誰が管理する？と問われると答えに窮する。水や水辺、冬の氷を含めて、子どもたちには遊び場として魅力的だった。ただ近年は空地も含めて、外で遊ぶ子どもたちは少なくなつた。少子化だけでなく、外遊びが少なくなつたのだ。外遊びには事故が付きま

とう。子どもたちの安全をどう確保するか？ 夏草は繁ると1・5m以上になる。枯草は冬の火の廻りを早くする。この管理も難問！ こう考えると埋め立てもやむなしとなる。

希少な植物

長い間に土手の植物の中に、他では見られない種類が生えてきた。ユウスゲ・ワレモコウ・クララ・フデリンドウ等。池の中にはフトイもある。これらは私たちの祖先が、自然と共に生きた時代の証人である。消えたら再生することは難しい。



ユウスゲ
キスゲとも言う。丈が1・2mほど。花はすっきりとした黄色。美しい。7月中下旬に開花



ワレモコウ
9月開花、拡大してみるとなかなか味がある。

掻い掘り調査を

埋め立てる前にぜひ調査をお願いしたい。どんな生き物が湖底に潜んでいるか？ 興味があるし、知りたい。また記録に残しておくべきだ。阿智村の備中原のため池では大きなカラスガイが多数発見されている。

(伊那谷自然友の会 小林正明)



大堤上の池 越冬するカモ類

編集後記

今年も我が家のシイタケ原木からシイタケが生えてきました。令和3年3月に座光寺地区財産区議会主催の「親子シイタケ駒打ち体験」に参加して、小6の息子と駒打ちをした原木です。駒打ちをした時には、シイタケが取れるのは2年後の秋と言われ、かなり先の話だと感じましたが、あつという間に時は流れ、息子も高1になりました。昨年から生え出したシイタケは、バター炒め、炊き込みご飯にしたりと好評です。

この4年間で世の中は大きく変化し、あの禍を克服しました。息子世代の皆さんは、できなかったことが多くありましたが、禍を乗り越えた経験を糧に成長していつてほしいものです。(広報部 原田)

